

<一般社団法人福島県法人会連合会会長賞>

身近な税、消費税の大切さ

二本松市立小浜中学校

3年 松本 怜美

2014年の4月、消費税が8%へと引き上げられた。この出来事は小学5年生だった私にも身近なことだった。これまで100円のものに対して5円を払っていたのが8円に高くなったり、店を経営している私の家では、税率が8%になったことで、値札を変えている様子を見ていたからだ。そして今、消費税が10%に引き上げられようとしている。私はこのことを聞き、なぜ税率がさらに引き上げられるのか不思議で、はっきり言えば反対の立場だった。あたりまえのように、ただ払っていたからだろう。

先日、消費税の使い道を家族に聞いたり、調べたりした。私は今まで、生活に役立っているのだという意識は持っていたものの、詳しいことは知らなかった。私は調べていくにつれ、とても驚いた。小中学校や公共事業など私と無関係なものなどなかったからだ。もし、税金を払っていなかったらどうだろう。学校に通えない子どもたちが当然のようにいたり、蛇口をひねっても水が出ない、道路はボロボロ、電車や飛行機も利用できなかつたり、風邪を引き、病院にかかっても全額負担しなければならなかつたりと、今の生活からは想像もできないような生活になるだろう。特に、学校へ通える環境がなければ、こうやって勉強することができていないかもしれない。そんな日々を過ごさなければならぬとすると、不安でたまらない。

そして、生活を豊かにしているということだけでなく、税金には「人と人とを結ぶ役割」があると思う。自然災害が起きた時、多くの人が払った税金によ

って災害復興がされるからだ。7年前の東日本大震災の時、警察や消防、自衛隊が支援してくださった。また、原子力発電所の事故もあったことから、私自身の目で実際に見た変化も多かった。例えば近くに仮設住宅が建設されたこと、放射線量を測定するモニタリングポストが設置されたことだ。税金によって、私たちの健康を守り、安心して生活するために支援をしていただいたのは心強かった。また、最近あった西日本豪雨でも同じだ。テレビでは繰り返し、支援を受けている様子を見た。このように直接的でなくとも、少しずつ払っている税金で誰かの役に立っていると考えるとうれしくなる。

身近である税、消費税。消費税を払うのはたった8%だ。だが、「塵も積もれば山となる」ということわざがあるように、税金も少しずつの積み重ねだ。そして私たちの生活を良くするための大きな力になり、今のような安心で安全な暮らしができているのだろう。もし、この事を知らず、以前の私のような税金を払うことに反対の人がいたら「身のまわりを見てごらん。多くのことに役立っているんだよ」と教えてあげたい。そして、税金についての正しい知識を持つ人が増えていったとすれば、10年後、20年後も明るい社会が広がっているのではないだろうか。